



田原市 地域コミュニティ連合会

●「田原市地域コミュニティ連合会」は、地域コミュニティによる“自主的なまちづくり”を目指すため、それまでの総代会に代わって、平成23年度に発足しました。

会報 第7号
発行日 2014.6.15

●連合会では、地域コミュニティ活性化のための調査・研究、定例理事会などでの意見交換、交流スポーツ大会、市への要望活動などを行っています。

* * 平成26年度 連合会役員をお知らせします * *

●代表理事



会長

彦坂 善 弘



泉校区会長

山内 六男



高松校区会長

本田 泰敏

副会長兼会計

●理事



六連校区会長

小林 直春



神戸校区会長

彦坂 雄三



田原東部校区会長

村上 誠



田原南部校区会長

富田 育男



童浦校区会長

鈴木 博



田原中部校区会長

加藤 武紀



衣笠校区会長

椿 実治郎



野田校区会長

河合 人



赤羽根校区会長

太田 進



若戸校区会長

福井 義行



和地校区会長

小久保 昌彦



堀切校区会長

高瀬 勲



伊良湖校区会長

小久保 忠廣



龜山校区会長

真野 多正



中山校区会長

小川 道夫



福江校区会長

宮川 敏彦



清田校区会長

柳原 悅男

「地域コミュニティ」＝「地域の助け合い」

地域に暮らす人々が、心のふれあい・相互理解・連帯意識を高め、みんなで手を取り合って、やすらぎとうるおいのある地域社会を築くことが、地域コミュニティの目的です。

(注) 校区会長＝コミュニティ協議会長



●定期総会



●地区行政連絡会

※1 定例理事会

連合会が毎月開催している会議で、地域課題の意見交換や連絡調整を行っています。偶数月は田原市長はじめ市幹部も出席しています。



※2 活動方針

地域コミュニティによる自主的な地域づくりにあたり、地域社会の理想像や推進項目を定めたものです。持続的な活動のため、平成23年度に示された方針を継続して取り組んでいます。

平成26年度の定期総会等を開催しました

4月18日（金）午前9時から、田原市役所において、「平成26年度田原市地域コミュニティ連合会定期総会」を開催しました。総会では、本会報1頁でご紹介した代表役員の選出や、平成25年度事業報告・決算、平成26年度活動方針および事業計画・予算の承認がなされました。

総会の席上、**彦坂善弘連合会長**は、「誰もが安心して暮らしやすい地域を目指すためには、特に防災、防犯、福祉などの分野において、地域の絆づくり、人と人とのつながりが非常に重要なとなっていますので、ご協力をよろしくお願いいたします」と述べました。

総会終了後には「定例理事会」（※1）を開催し、また、午後は華山会館

に会場を移して、連合会役員と市内全106の地区自治会長、市長はじめ市役所幹部職員出席のもと、「地区行政連絡会」を開催しました。

地区行政連絡会では、市役所や田原警察署から協力依頼や諸連絡がなされた後、童浦校区の鈴木博会長と泉校区の山内六男会長から、それぞれ自主的な地域づくりの取り組みが発表されました。（発表内容は3ページに記載）



●地区行政連絡会

平成26年度 活動方針（※2）

目標とする地域社会	誰もが暮らしやすい社会
活動の目標	みんなが参加し、互いに尊重・助け合う地域づくりの場 ①コミュニティ活動の目的・目標をみんなで共有しましょう。 ②一人ひとりが出来ることから取り組む全員参加のまちづくりを進めましょう。 ③情報交換や交流イベント等により、連帯意識を高め、人づくりを進めましょう。
推進項目	

平成26年度 事業計画・収支予算

■事業計画

定期総会	4月
定例理事会	毎月
地区行政連絡会	4月
交流スポーツ大会	6月
広報発行	6月・1月
連合会要望活動	10月
先進地視察	7月
地域懇談会	随時
市施策・公益活動等への協力	随時
市審議会等への委員参加	随時
地域コミュニティ活性化研究会運営	随時
連合会ホームページによる情報提供	随時

■収入

科目	金額（千円）	摘要
1 会費	1,200	各校区協議会負担金
2 市補助金	1,200	運営
3 繰越金	265	前年度繰越金
4 その他	1	雑入
計	2,666	

■支出

科目	金額（千円）	摘要
1 運営費	480	会議費・役員費・事務費
2 事業費	2,100	調査研究・計画推進・広報等
3 予備費	86	
計	2,666	

◆童浦校区コミュニティ協議会

童浦校区のまちづくり



童浦校区コミュニティ協議会

青い海と豊かな緑の中で
みんなの心が通い合う
住みよい校区「童浦」

童浦校区では、『童浦校区まちづくり推進計画』に定められた将来像“青い海と豊かな緑の中でみんなの心が通い合う住みよい校区『童浦』”を目標に、地域づくりに取り組んでいます。協議会は11地区自治会と校区内に拠点を置く各種団体、行政委員代表者等の委員67名で構成しています。

■校区の課題

童浦校区は面積も広く、市民館に遠い地区もあり、また、構成地区数も11と多く、約半数が新たにできた地区であるため、校区全体の連携が図りにくいといった問題を

抱えていました。

■童浦校区の取り組み

子どもが友だちになれば、親が親しくなる子ども会など地域の活動を通じて子どもたちから保護者に、保護者から地域住民へ、地域住民から校区住民へと、時間をかけ、少しづつ結びつきが深まるよう取り組んでいます。

市民館祭りは校区最大のイベントで、保育園児・小学生から市民館を拠点に活動する芸能グループ、老人クラブ、各地区自治会など、老若男女・地区を問わず1,500人を超える参加者で市民館全域がにぎわいました。



●童浦市民館まつり

◆泉校区コミュニティ協議会

泉校区のまちづくり

～豊かな自然 みんなで守ろう 清々しい泉～
～より住みよい 環境を作ろう 美しい泉～
～安心は みんなで築こう 明るい泉～



泉校区のランドマーク七つ山 泉校区コミュニティ協議会

泉校区では、『泉校区まちづくり推進計画』に定められた将来像、“安心安全であり住みやすいまちづくり”的実現を目指し、地域づくりに取り組んでいます。協議会の運営は、8地区の自治会長をはじめ、各種団体の長や地区役員22名で行っています。

■泉校区の取り組み

【豊かな自然みんなで守ろうすがすがしい泉】泉が池は四季を問わず常に湧き水がみられ、泉村の村名はここに端を発すると伝

えられております。自治会による祭事が毎年行われるとともに、現在は田原市農政課の事業により整備が行われています。

【より住みよい環境を作ろう美しい泉】八王子、村松、馬伏は、路線バスのバス停から遠く「公共交通空白地域」となっていました。市・事業者と協働体制でジャンボタクシー「いずみ号」の運行を校区で支え、4月から本格運行となりました。また「いずみ号だより」を創刊し、全戸に配布し啓発に努め、この2月には「利用者二千人達成」をすることが出来ました。



●「いずみ号」本格運行出発式



童浦校区のあらまし

田原市の北東部に位置します。南は市のシンボル蔵王山、その他の周囲を臨海工業地帯及び三河湾、汐川干潟などに囲まれています。市の中心市街地と隣接し、利便性が確保されるとともに、三河港大橋により豊橋方面と結ばれています。

○人口 6,726人

○世帯 2,740世帯

○面積 約2,267ha

(平成26年3月末現在)

安心安全で
より住みやすい
まちづくり

泉校区まちづくり 推進計画書



平成19年3月策定 平成24年2月改訂
泉校区コミュニティ協議会

泉校区のあらまし

田原市の北中部に位置し、北部は三河湾に面し、宇津江、江比間、伊川津にそれぞれ漁港が位置しています。また、東、南、西の三方は七つ山、白山、大山、雨乞山等緑豊かな山々が連なり、その間に農地が広がっています。

○人口 3,807人

○世帯 1,217世帯

○面積 約1,947ha

(平成26年3月末現在)

田 原市地域コミュニティ連合会の専門委員会として、活性化研究会では地域の抱える課題をテーマに検討会を開催しています。委員は連合会代表者、地域役員経験者、女性団体代表、市民館主事、まちづくりアドバイザー経験市職員、学識者の12名で構成されています。

平成25年度は「**学校再編にかかるコミュニティ・校区制のあり方**」をテーマに検討を重ねましたので、その結果について紹介させていただきます。



◆研究会委員12名による検討状況

●地域コミュニティの経緯

昭和48年に**東部地区が県下初の自治省モデルコミュニティ地区**の指定を受け、コミュニティ協議会を設立しました。その後、東部の取り組みを参考に、昭和60年には代表総代制から小学校単位の校区総代制（9名）へと移行されされました。**平成15年8月**に旧田原町、旧赤羽根町が合併し、**田原市が発足**され、旧赤羽根町は駐在員制であったが、合併とともに廃止し、校区総代制を実施し、合わせて**各校区でコミュニティ協議会の設立**が行われました。平成17年10月には田原市と旧渥美町が合併し、半島が一体となり、全地域が総代制となりました。

●地域コミュニティの前提事項

地域コミュニティの枠組みについて主な考え方を4つの項目に整理しました。

①身近なコミュニティ活動の適正区域

概ね徒歩圏内（小学校通学区域）が活動を形成できる区域

②地域課題が共有できる区域

共通課題などに自治会が連携して活動することで効果・成果が向上

H25年度検討テーマ

学校再編にかかる コミュニティ・校区制の あり方について

＜検討結果報告書＞

（この報告書について）

◆コミュニティ活動の状況は各校区において違いがありますので、活動状況によって問題となる場合、ならない場合があります。

◆実際の校区再編に応じて、検討項目や提案内容を検証していただく形で、再編後の校区コミュニティ協議会等のあり方を検討するための手がかりとして、取りまとめてあります。

田原市地域コミュニティ活性化研究会

（田原市地域コミュニティ連合会専門委員会）

平成26年3月

③地域課題の対応・行政との連絡調整

地域課題や歴史文化を共有できる区域ごとの代表者で円滑な地域活動が可能

④小学校との親和性

小学校と連携した活動も多く、校区単位のまとめが役員の負担軽減となる。

●校区再編に向け・・・

校区再編に伴う前提事項や課題整理の確認等から校区制・地域コミュニティのあり方に関する提案を6つの項目にまとめました。

しかしながら、活動については各校区で状況が異なります。実際の校区再編に応じて、今回検討された項目や、提案内容を検証する形で、再編後の校区コミュニティ協議会のあり方を検討する際の手がかりにしていただきたいと考えます。

◆検討結果報告書は田原市地域コミュニティ連合会ホームページでご覧いただけます。

連合会ホームページをご覧ください

田原市地域コミュニティ連合会では、活動内容や各校区のイベントなどの情報をホームページでお知らせしています。ぜひご覧ください。

田原市地域コミュニティ連合会

検索

編集：田原市地域コミュニティ連合会事務局

（田原市役所市民協働課）

電話 0531-23-3504

メール tahara-komiren@city.tahara.aichi.jp

ホームページ <http://tahara-komiren.com/>